

下豊富  
福祉だより

第25号  
平成27年9月1日  
発行  
下豊富福祉推進協議会

ごあいさつ

下豊富福祉推進協議会

会長 荒川 修



毎年、毎年、異常気象が続いているような気がして本来の生活パターンが分からなくなりそうなこの頃ですが、下豊富の皆様におかれましては何かがお過ごしでしょうか。ご機嫌をお伺いいたします。

福知山市にもたくさんのお老人介護施設がありますが、どの施設も満杯状態で、利用希望者は空き待ちの状態だそうです。介護保険制度も改訂され、長年住み慣れたふる里で

生きるだけ長く生活したいという多くの人の思いを受け、地元で応援できることがあれば応援してほしいと行政からの呼びかけがあります。もつと詳しく教えてほしいと八月に下豊富の福祉推進協議会の支部長・副支部長を対象に研修会を開催しました。

お年寄りの先輩方に少しでも長く住み慣れた地元で生活していただくためにどのようなお手伝いができるのか、さまざまな項目があることとしますが、行政が把握している内容をどこまで近くで一緒に生活して

いる私たちに公開できるのかプライバシー保護のこともあり難しいことだと思えます。

私達は昔から同じ地域で生活してきているのですからある程度のそれぞれのご家庭の事情も分かっていますが、それから先はプライバシーのこと、どのように共有していけばいいのでしょうか。それぞれのご家族のご了解を得てお互いの歩み寄りを進めていかなければなりません。

福知山市の地域包括支援センターという所で行っているような案件の振り分けをしています。

昨年度から下豊富と上豊富がその中のモデル地区として指定されています。地域包括支援センター内では活動しているようですが、私たちに對しての具体的な要請というか動きはまだなく前途多難のようです。

六〇歳を超え六五歳でも元気な地元の人達はたくさんいます。自分に出ることがあれば『ご恩返し』をしたい人は沢山いるのです。世間で常用語のようになってきた『有償ボランティア』の形でも応援は出来ます。

いずれにせよ私たちは誰もおだ

やかに近所の人たちと付き合いながら過ごしたいと願っているのですからまさに『胸襟を開く』思いで取り組まなければならぬと思います。そして地域の民生委員の皆さんの活動も今まで以上に忙しくなることでしようがよろしくお願いをする所です。



8月8日 福祉研修会



八月八日、成和地域公民館で下豊富福祉推進協議会の役員及び各自治会の支部役員を対象に、福祉研修会が五十六名の参加で行われました。

「地域ケア会議の取り組みについて」というテーマで、福知山市福祉保健部高齢者福祉課より、荒賀正之課長補佐と主任介護専門員の高岡克弘氏を迎え、「地域ケア会議がなぜ必要なのか」について丁寧に説明いただきました。

団塊の世代が七十五歳以上となる一〇年後の二〇二五年には、人口は減るが七十五歳以上の後期高齢者人口は逆に増える。国は、高齢者が住み馴れた地域で自立した生活を送れるようにするために、「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」が日常生活の場で切れ目なく提供できる地域での体制づくりを推進している。この仕組みを「地域包括ケアシステム」と言う。とのことでした。

そして、「地域包括ケアシステム」を実現するため、①高齢者個人に対する支援の充実②そのための社会基盤の整備を

同時に進める有力な一つの手法として「地域ケア会議」が考えられました。

福知山市の六つの日常生活圏域の内、「上豊富・下豊富」地区が高齢化率や都市部・山間部の構成等が福知山市の平均に近いということで、市のモデル圏域とされ、平成二六年九月から高齢者の個別課題に応じ、関係者が集まり、支援検討会議が開催されています。

来たる少子高齢化社会では、人が減りお金（税収）はなく、介護サービスの維持が難しくなる。福知山市では平成二十九年度から要支援一・二の軽度者への介護サービスが市の地域支援事業に移行する予定で、地域の支援が必要となります。いつまでも住み馴れた地域で暮らせるために、地域でどんな支援ができるか。私たちができることは何か。考えさせられた研修会でした。

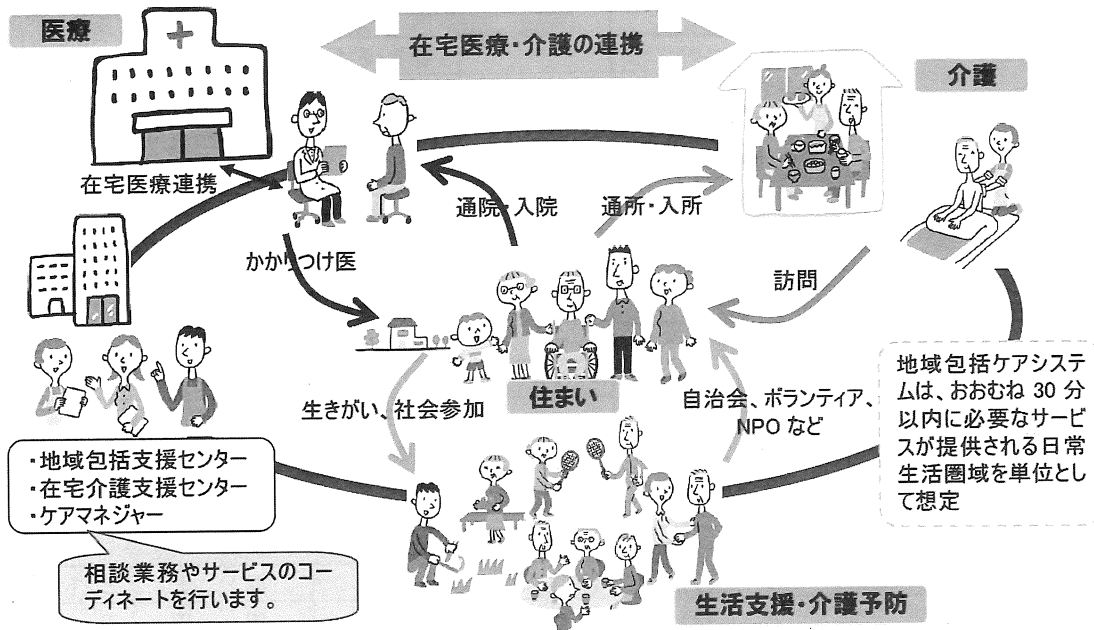


平成27年度 事業計画

月 日	事業名	適 用
4月11日	役員会	平成26年度事業報告・決算について 平成27年度事業計画及び予算（案）について 総会について その他
4月18日	推進協総会	平成26年度事業報告・決算について 平成27年度事業計画及び予算（案）について その他
6月24日	役員会	福祉研修・福祉だよりの発刊について その他
8月 8日	福祉研修会	講演会「地域ケア会議の取り組みについて」 講師 高齢者福祉課担当職員
9月 1日	福祉だより	第25号発行 3,000部発行予定
10月 1日	視察研修	三田市広野地区ふれあい活動推進協議会ほか
10月 下旬	心もち訪問	おはぎを作り一人暮らし高齢者宅訪問 成和コミセンにて調理
11月	小学生との交流	修斉小学校ひめがみっ子集会 修斉小学校体育館にて
11月	ふれあい給食	一人暮らし高齢者ふれあい給食 料理の調製・豊の郷にて
2月	ふれあい給食	一人暮らし高齢者ふれあい給食 料理の調製・豊の郷にて
3月	役員会	各支部活動助成金審議・事業及び会計報告 その他

# 地域包括ケアシステムの姿

■2025年の地域包括ケアシステムの姿



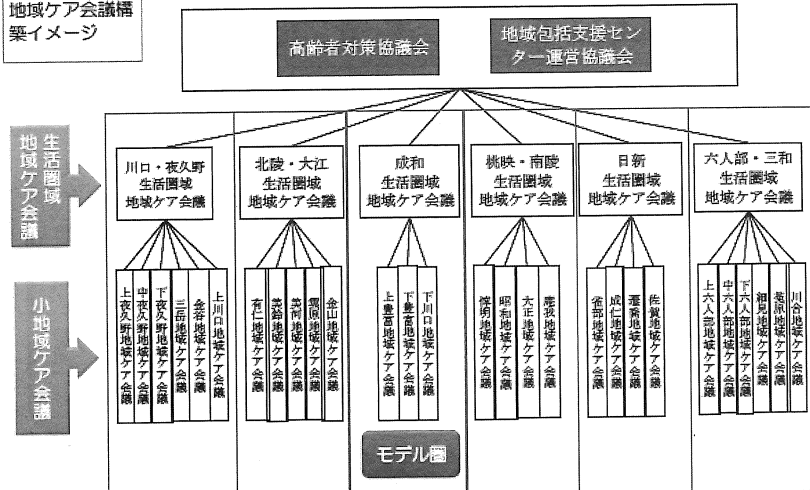
福祉研修会資料抜粋

## 高齢者人口等将来推計

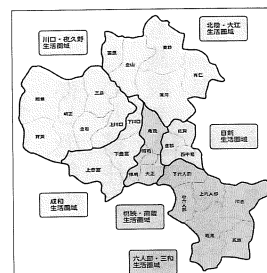
	H32年 [5年後]	H37年 [10年後]	増減数
人口(福知山市)	78,589人	76,762人	△1,827人
65歳以上人口	23,650人	23,618人	△ 32人
75歳以上人口	12,868人	14,674人	1,806人

上豊富地区・下豊富地区では、モデル圏域として全市に先駆け、サンヒルズ紫豊館と牧のニコニコハウスを会場に、昨年九月から「小地域ケア会議」が開催され、ゴミ分別、地域住民の支援の在り方などの課題が話し合われていきます。  
 沢山の資料で説明されましたが、その抜粋を掲載します。

地域ケア会議構築イメージ



福知山市の日常生活圏域



日常生活圏域については、中学校区を基礎として、「桃映・南陵」「成和」「日新」「六人部・三和」「川口・夜久野」「北陵・大江」の6圏域を設定しています。

## あとがき

あれだけ暑かった夏、入道雲はどこに行ったのでしょうか。

全国のニュースで「福知山の最高気温：」とよく聞こえてくるのが気になりました。

近年、福知山線事故、花火大会事故、二年続けての洪水・浸水災害となれば、また「福知山」かと思うのも当然でしょう。

去る六月こんなこともありました。「日本創生会議（座長 増田寛也元総務相）の「首都圏問題検討分科会」において、東京圏を中心に団塊世代の多くの人が介護を必要とし、近い将来介護職員・施設が大きく不足するとしています。そこで、「高齢者追い出し作戦」と称し老後の移住に適した地域「おためし移住先」として全国の中でも施設や人材にゆとりのある地方都市「福知山」を挙げています。老後は全国でも有名となった「ふるさと福知山」の介護施設で生涯世話になろうとする人が増えるのではないのでしょうか。